

## 式 辞

本校の中庭では木々の蕾も日ごとにふくらみ、寒さの中にも躍動する春の息吹を感じる今日の良き日、敬愛学園高等学校 第66回卒業証書授与式を厳粛かつ晴れやかに挙行できますことを心から感謝申し上げます。

ただ今、403名に卒業証書を授与いたしました。

卒業生の皆さん 卒業おめでとうございます。今、皆さんの脳裏には本校での出来事が次から次へと走馬燈のようによみがえっていることと思います。皆さん一人ひとりが、本校の建学の精神『敬天愛人』をモットーに充実した高校生活を送りました。毎日の学校生活で見せた明るく素直な生活態度、学校行事で示した集中力と団結力、放課後の部活動や生徒会活動での直向きで誠実な取り組み、これら全てが、本校の良き伝統としてこれからも後輩たちにしっかり引き継がれていくものと確信しています。

さて、皆さんの高校生活最後の1年で、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより世界中の人々の生活が一変しました。その中で、皆さんの学校生活も大きな影響を受けました。長期にわたる休校に加え、最終学年として参加することを楽しみにしていた学校行事や高校最後の部活動の大会などが中止となり、やるせない思いをした人も多かったと思います。目に見えないウイルスが、ここまで人間の生活に入り込み、影響を及ぼすことになるとは想像出来ませんでした。その一方で、当分の間は、自分の身近で出来ることを徹底することによって、感染者を減少させ、医療現場の逼迫を防ぎ、人の命を救うことが出来ることも学びました。

皆さんがこれから歩む社会は、このような未知なる感染症の流行だけではなく、地球規模のエネルギー・環境問題や食糧問題、そして国内では、急速に進む少子高齢化など様々な課題を抱えています。さらに、人工知能やロボットをはじめとする先端技術の加速度的な進歩により、変化が激しく先行きが不透明な社会でもあります。そのような厳しい状況ではありますが、皆さんには「人生百年」と言われる時代に、充実した人生を歩んで欲しいと願っています。卒業に当たって、私から皆さんに2つお願いがあります。

1つ目は、思いやりの心を大切にし、豊かな人間性を備えた人になって欲しいと思います。コロナ禍にあつて、感染しないように自らの行動を厳しく律するのは、自分自身のためだけではなく、家族や身近な高齢者など大切な人を守るためでもあります。人への思いやりは、結果として自らも幸せにしてくれます。さらに、周囲の人から信頼されることにもつながります。本校の建学の精神である「敬天愛人」を、卒業後も実践し続けて欲しいと思います。

2つ目は、高い志を持って失敗を恐れず挑戦し、最後まであきらめずに粘り抜く人になって欲しいと思います。皆さんには無限の可能性が 있습니다。限界は他人が決めるのではなく、自分の心の中にあるものです。挑戦する前から自分の限界を決めないでください。時には失敗することもあると思いますが、その経験が自分を成長させてくれると信じて、前に進んでいってください。そして、常に将来に希望を持ち、変化に対応しながらも、周囲に流されることなく、自らの座標軸をしっかりとって、主体的に生きていくことを期待します。

結びになりますが、皆さんが高校卒業という人生の節目を迎え、最も喜んでいらっしゃるの、これまで皆さんを一番近くで支え、見守り続けてくれた保護者・ご家族の方々です。今日、家に帰りましたら、是非、感謝の気持ちを言葉で伝えてください。

それでは、希望に満ちた門出に当たり、この学舎を巣立ちゆく皆さんの前途に幸多からんことを心から祈念して式辞といたします。

令和3年3月1日

敬愛学園高等学校 校長 奥山 慎一